

地域医療連携だより

Vol.254
R6.8

長浜赤十字病院 地域医療連携課
〒526-8585 滋賀県長浜市宮前町14-7
TEL0749-68-3314
FAX0749-68-3315



地域医療支援病院・救命救急センター
地域周産期母子医療センター
地域災害医療センター
滋賀県地域がん診療連携支援病院
滋賀県基幹原子力災害拠点病院



盛夏の候、貴院におかれましてはますますご清栄のことと存じます。
平素より当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。



米原市伊吹土砂災害における救護班活動

会計課 出納係長 村上 翔一

令和6年7月1日午前、米原市伊吹にて大雨による土砂災害が発生し、集落内の住宅では崩れた土砂が流れ込み、一部世帯には警戒レベルの最も高い「緊急安全確保」の指示が出されました。同日正午過ぎ、私は情報収集を目的に赤十字救護班要員で先遣隊として出動しました。

まず伊吹生活改善センター（米原市伊吹）にて避難所アセスメント（避難所の生活状況の確認や、医療など必要なニーズの把握）および避難者の避難所移動の支援を行いました。生活改善センターでは在宅酸素を使用している避難者がおられ、救護班として業者と連絡調整を行い避難先へ在宅酸素の手配を行いました。その後伊吹小学校（米原市上野）に移動し避難所アセスメントを継続しました。小学校避難所では30名弱の方が避難されていましたが、幸いにもケガや病気などの医療ニーズはほとんどなく、ライフラインも通っており、食料や飲料水も確保され、継続した救護班の必要性は低いと判断し、救護班としての活動は終了となりました。活動中は、市職員や地域の方々の協力を得て、安全に活動することができました。

長浜市・米原市地区では、今回の土砂災害の他にも、姉川、高時川の氾濫や竜巻の発生など、局所的な災害が発生しています。滋賀県全体では、近年は大災害と呼ばれる程の災害は起こっておらず、他の都道府県と比べて災害が起こりにくいと言われていますが、災害はいつ起こるか分かりません。平成28年に発生した熊本地震は、発生確率が0~0.9%であったにもかかわらず発生しました。その他にも、南海トラフ地震、首都直下地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震などの地震の発生が今後予測されています。今回の活動でも、日頃からの備えが重要だということを再認識させられました。

赤十字では、院内・外で災害救護のための研修や訓練を実施し、災害に備えています。これからも皆さまのご協力よろしくお願いたします。



出発式の様子



避難所訪問の様子



地域医療連携研修会を終えて ～こんなにあるの！？口腔ケアの効果～



集中ケア認定看護師 佃 美里

6月22日にZOOMを使って湖北地域で医療・介護・福祉に関わる方を対象に口腔ケア効果・方法について講義をさせていただきました。私たちはICUの超急性期の患者さんがいつでも口から食べられるように、早期リハビリテーションとして口腔ケアを行い、口腔環境を整備することと、口や舌を動かす機会をつくり、摂食・嚥下に関与する筋肉を衰えさせないようにし、自分でお箸やお茶碗をもって食べられる筋力を維持できるように日々看護しています。食べることは人間の三大欲求の1つであり、多くの人にとって喜びを感じる行為です。口から食べられるということは、患者さん、利用者さんの精神的な満足感をもたらし、最も生理的な栄養摂取の方法です。そのため、急性期、慢性期、在宅と関係なく、いつでも口から食べられる準備、食べ続けられる整備を行う必要があります。

講義では、事前に質問があった「開口困難事例についての対応」や「入れ歯の清掃方法、管理方法」についても説明させていただきました。講義後には「当院で使用している口腔ケア観察シートを活用してみたい」や「教えてもらった脱感作を試してみたい」、「口腔ケアは誤嚥性肺炎の予防だけでなく、口腔刺激が脳の活性化につながることで、食べるための筋トレに有効と聞き、時間をみつけて丁寧にケアしたいと思った」という感想が聞かれ、口腔ケアの重要性を理解していただけました。これからもリソースとして地域の方々と一緒に、ケアの質の向上のお手伝いができればと思います。いつでも気軽にお声かけください。

管理栄養士 粕淵 直美

6月22日に行われた地域医療連携研修会において、嚥下調整食と高齢者の低栄養についてお話しさせていただきました。WEB研修でしたので皆さんの反応が見えず少し寂しい思いもありましたが、前半の口腔ケアの内容も含め、学びが多かったと評価いただいたようで嬉しく思います。私自身も口腔ケアのお話を隣で聞いていて、とても勉強になりました。

今年度の診療報酬改定で低栄養診断にGLIM基準が導入されたことから、今回の研修では低栄養について重点的にお話ししました。このGLIM基準の診断項目の中に「意図しない体重減少」という項目があるので、施設入所中の方だけでなく、在宅の方も定期的な体重測定をお願いしたいとお伝えしました。医療機関に入院された際には、普段の体重や最近の体重変化も情報提供いただけると幸いです。

施設や地域で高齢者の生活を支えて下さっている皆さんと連携して、湖北地域にお住まいの方々がより健康で豊かな人生を送っていただけるようお手伝いができればと思います。今後ともよろしく申し上げます。

言語聴覚士 長谷川 味香

在宅生活する摂食嚥下障害の方を支えるキーパーソンに対して、食事介助方法についてお話ししました。

今回、折角の対面での研修会ですし、座学だけでなく、日々のケアにお役にたつような実技を多く取り入れました。他施設・職種混合のグループに分かれて、日頃使い慣れていない聴診器を使用したり、タオルで体に合った即席クッションを作って姿勢を整えたり・・・等、嚥下評価やポジショニング、介助方法について楽しく学ぶことができました。研修中、多くのご質問を頂き、日頃の摂食嚥下に纏わるお困りごとが多いこと、参加者の皆さんが摂食嚥下について熱心に勉強されて日々のケアに取り組まれていることを感じました。今回お伝えしたことを日々の業務に活かして頂けると大変嬉しいです。

今後も、摂食嚥下障害の早期発見、迅速なケア内容の変更、安全に食べる為の情報等々お伝えできる機会があれば、協力していきたいと思っております。

